

目次

漢語「共通」について

『英和对訳袖珍辞書』初版の書き込みについて

——主に立教大学所蔵本を中心に

枕詞「三枝さんしの」考 —— 「ミツマタ」を排して残るもの ——

浮舟と「数かずならぬ」・「身のほど」の意識

——明石の君・中将の君をとおして——

火野葦平の〈戦争〉Ⅱ —— 中国戦線からフィリピン戦線へ ——

火野葦平「花と兵隊」の基礎的検討

空転する「R」 —— 安部公房「R62号の発明」論

祈りの演劇 —— 井上ひさし『紙屋町さくらホテル』を観るために

「記憶」と「思い出」の狭間に —— 青山七恵「ひとり日和」をめぐる

村上春樹「ドライブ・マイ・カー」論

——「生きる姿勢」、家福の盲点を生み出すもの

シンポジウム報告

(一) 戦後の東アジアにおける日本語文学——移動・交流・支配——

(二) フランス・パリでの絵巻ワークショップの開催について

(三) 立教大学文学部日本文学科/文学科日本文学専修設立六十周年記念  
国際シンポジウムⅡの開催について

書評 神山彰編『交差する歌舞伎と新劇』

佐藤善也著『北村透谷 解説と論究』

前田潤著『地震と文学 災厄と共に生きていくための文学』

新刊紹介

彙報・編集後記

胡 新祥 2

肖 江楽 14

櫻井 靖久 28

大竹 明香 36

石崎 等 50

松本 和也 64

安尾 太一 78

嶋田 直哉 91

疋田 雅昭 105

山本 千尋 122

石川 巧 135

鈴木 彰 139

鈴木 彰 141

阿部由香子 143

出口 智之 147

位田 将司 151

156